かけ橋

まだ見ぬ君へ…

ネバーランド・クラブ

すばらしい文化・芸術を市民の手から発信していこうと、昨年十二月にロゼシアタ―で上演された市民ミュージカル〝春への出発（たびだち）・ディアナ号の贈りもの（たち）〟。これに出演し、人に感動を伝える喜びを知り、演劇に魅せられた五人の若き女性たち。

今回は、この五人の女性が結成した演劇グループ「ネバーランド・クラブ」を紹介します。

ネバーランド・クラブは、ことしの三月に結成。グループ名は、〝ピーターパン〟の物語に登場する「夢の島」から名づけました。

メンバーの五人は、市民ミュージカル〝ディアナ号…〟で同じ場面に出演した仲間。公演に向け、ともに泣き、笑い、汗を流す中で友情が芽生えました。そして公演後、〝ディアナ号…〟の感動を再び自分たちの手で、との思いからネバーランド・クラブが生まれたのです。

▷「富士市下水道まつり」で上演された〝雨だれチャッピーの冒険〟から

ことしの九月二十三日に開催された「富士市下水道まつり」の中で、演劇を通して下水道をPRしようという初の試みが行われました。

この演劇の出演依頼を受けたのは七月。ネバーランド・クラブを結成してから、公民館などをけいこ場として、発声や柔軟体操などの基礎練習を積んでいた時期のことです。

メンバーは「富士市下水道まつり」を初舞台の場に選びました。タイトルは〝雨だれチャッピーの冒険〟というもので、空から落ちた雨つぶが川を流れたり、家庭雑排水として下水道を通ったりする間に、さまざまな冒険をするという物語です。

公演に向けて、再びけいこの毎日が続きました。つらいこともたくさんありました。けれど本番では「出せる力はすべて出し切った」とメンバーの一人は語ります。

「これからも舞台に立ち、人に夢と感動を与え続けたい」

市民ミュージカルをきっかけに芽生えた小さな文化・芸術が今、少しずつ花開こうとしています。

ねんりんピックの
なぎなた競技で3位入賞

鈴木幸枝（ゆきえ）さん

（伝法）

ねんりんピックとは、国内の六十歳以上の人たちのためのオリンピックのことで、ことしは十月に島根県で開催されました。

鈴木さんは、なぎなた競技の個人戦、団体戦、演技の三部門に県代表として出場。見事、個人戦で三位に入賞しました。昨年に引き続き二回目の出場で得た好成績に「まさか、ここまでいけるとは思いませんでした」と鈴木さんは充実感に満ちた笑みを浮かべます。

戦時中、鈴木さんは小学校の授業で、なぎなたを訓練した経験があります。しかし、戦争が終わって平和な社会になってからは、全くなぎなたとは縁のない生活を送っていました。

昭和五十八年のある日、広報ふじの「なぎなた教室・生徒募集」の記事が鈴木さんの目にとまりました。その日以来、なぎなたは鈴木さんとは切っても切れない存在になったのです。

得意技は「すね打ち」。相手が前へ出てくる瞬間が勝負の分かれ目です。しかし、試合に勝つことだけが目的ではありません。礼儀作法の修練はもちろん、相手を敬う心を養うことも大事。体を鍛え、精神力を磨くことが技の上達につながるのです。

なぎなたの先生である大橋あさ子さんは、鈴木さんのことを「武道に対して、ひたむきに精進している姿がとうとい」と語ってくれました。

生きがいとなったなぎなたを通し、みずからの鍛練に励む鈴木さん。最近では初心者の指導にも情熱を注いでいます。